



あまいろだより

手づくり市民メディア

vol.38 | 川と生きる。

2019.6.15



何度も洗ってつかえるエコラップ
ミツロウラップ
販売中!!



プラスチックラップを使いたくない、でも便利だしつつい...と思ってるあなたのためのミツロウラップ。

プラスチックを使わないから化学物質を体内に取り込まずに、食品もフレッシュなまま。しかも繰り返し何度も使えるから、気分はサイコー!

- Sサイズ 13x13cm 500円 (ex.生姜ひとかけ、半分に切ったリンゴなどに)
- Mサイズ 20x20cm 800円 (ex.お皿に残ったおかずなどに)
- Lサイズ 26x26cm 1000円 (ex.サンドイッチやおにぎりなどに)

オーガニックコットンの生地にミツロウ (たまばん@信楽のニホンミツバチのミツロウ、またはオーガニックミツロウ) とオーガニックココナッツオイルと松ヤニをいい塩梅にブレンドして手づくりしています。(監修 Biwabochi ちまり)

▶ 購入ご希望の方は、「あまいろだより」FB・インスタにメッセージいただくか、あまいろ探偵団にお声かけ下さい。尚、FB・インスタページに使用例写真をアップしています。見てね!



滋賀的! あまいろ勉強会を催します/
オーガニックが食べたい!

講師 印鑰智哉さん

2019年 10月5日(日) ご予約を!

時間・場所等詳細は決まり次第、FB・インスタページにてお知らせします

「世界の食と農」問題の第一人者である印鑰智哉さんを迎えての勉強会。世界の有機農のこと、食の安全のこと、遺伝子組換え作物の体に与える影響のこと、農薬と病気のこと、わからないことたくさん! 頭をつき合わせてじっくり勉強しませんか?

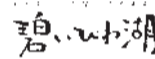


声をつなく市民ラジオ
ことばにする
耳をかたむける
AMAIRO CHANNEL
あまいろチャンネル

<http://www.aoibiwako.org/amairo-channel/>

あまいろだより(天色便り)第38号
特集/川と生きる。
編集/あまいろ探偵団
(北岡七夏・きむきかん・志賀未来・中野和子・藤井朋子・森優子)
表紙タイトルロゴ/岸田知之
発行日/2019年6月15日
発行/特定非営利活動法人碧いびわ湖
~大切なことを他人まかせにしない、自分たちで力をあわせてつくる~
TEL 0748-46-4551 FAX -46-4550
Eメール info@aoibiwako.org
ブログ <http://aoibiwako.shiga-saku.net/>

びわ湖の森を元気にするkikitoペーパーを使用しています(びわ湖の森の間伐材活用)



お話を伺ったのは...

瀧 健太郎 さん
TAKI Kentaro
滋賀県立大学 環境科学部
環境政策・計画学科 准教授

川の日(7月7日)生まれ。大学院修了後、民間企業を経て滋賀県庁勤務(18年間)のち現職。河川・流域政策の実務を長年にわたって担当しました。国内外のたくさんの川やそこに関わる人びととの出会いを通じて、地域に愛される川こそが「いい川」だと信じるようになりました。

現在は、流域の水循環と社会システムとの相互関係に着目し、持続可能な流域社会の実現に向けた政策や計画に関する研究を進めています。流域政策・計画に関する学問分野の体系化を目指しています。

川チャリとは...

川沿いの道をサイクリングすること。
自転車であつくり走ると、地域の人々や自然とのふれあいがあったり、川からの風やまわりの風景を楽しめます。

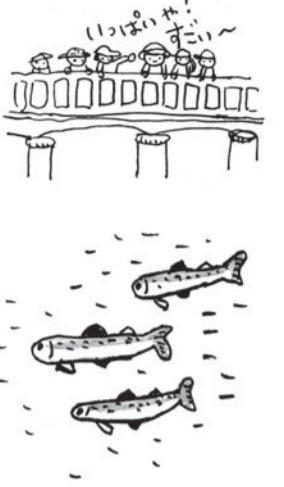
原市)でした。
河口から出発して、醒ヶ井でランチ休憩してから引き返すというコース。川の様子が見えるポイントで瀧さんの話を聞きながらの川チャリでした。

『霞堤』という昔ながらの堤防を多数のこす天の川(米原市)でした。
河口から出発して、醒ヶ井でランチ休憩してから引き返すというコース。川の様子が見えるポイントで瀧さんの話を聞きながらの川チャリでした。

欧米の川には堤防がないのに、なんで日本の川には堤防を作ってしまうんだろう?



川をいじる



瀧 ほんほら大きい魚が泳いでる泳いでる。大きいのが向こうからも来てる。ここ、今下流に向かっているの、水が流れてないよに見えますよね。もともと、天の川は川底が高くて、さーっと琵琶湖に水が流れてたんですけど、治水へ溢れさせない(一)のために川底を掘ったんです。で、川底を掘るとどうなるかと言うと、琵琶湖の水が入ってきますよね。だから流れがないように見えるんです。琵琶湖が増えると思ってください。

水の時に水がザッと流れてきた勢いを感じて、遡上を始めるんです。でもね、こんな風に琵琶湖の水がここまで深く入ってきてしまうと、ちよっとの洪水で、アユもビワマスも今上がってええんかどうか判断がきつらくなって、河川改修が終わった川では、アユやビワマスの数が減ったりします。

でもこうやって掘ってあげないと、周りの人たちが災害で困ることもあるので、こういう風にバランスを取るかはとても難しいですね。

天の川

瀧 日本の法律では、洪水を川から溢れさせないように治水をしようとしてることになっていて、今ではどこも連続した堤防を作って、洪水を川の中から溢れさせないようにしてあるんですけれど、昔は霞堤(かすみでい)と言って、所々に堤防をきつて、水が溢れてもいい所に水を溢れさせる工夫をしていたんです。

そんな霞堤が天の川にはたくさん残っています。もともと『手を付けた』のは幕末の彦根藩主伊直弼だそうなんです。その霞堤付近のしよちゅう浸水する地域はみんな豊かな田んぼです。生態系もすくすく、さらに大きなダムもないので、ビワマスやアユがたくさん上がる、すくすく健全な川のひとつです。

霞堤

瀧 これが霞堤という堤防です。(戦国時代からの)日本の伝統的な治水技術で、これがあるところ洪水でも町が守られるというすごい工夫なんです。普通の堤防っていうのはずーっとつながっているんですけど、霞堤だと、堤防が切れて開いているんです。(※①図)で、洪水の時に川が溢れそうになったら、この開いているところから逆流して、ここ(遊水池)に水を貯めるんですね。その代わりね、ここにもうひとつ控えの堤防があるんです。(※②図)控えの堤防があるおかげで集落が守られるんですね。で、この逆流した水がたまる所には田んぼがあるんですけど、川の泥水が入らないように大体入り口には竹やぶがあったりして、勢いを殺してふわーっと水が入ってきて、ふわーっと流れていくって仕組みになっています。

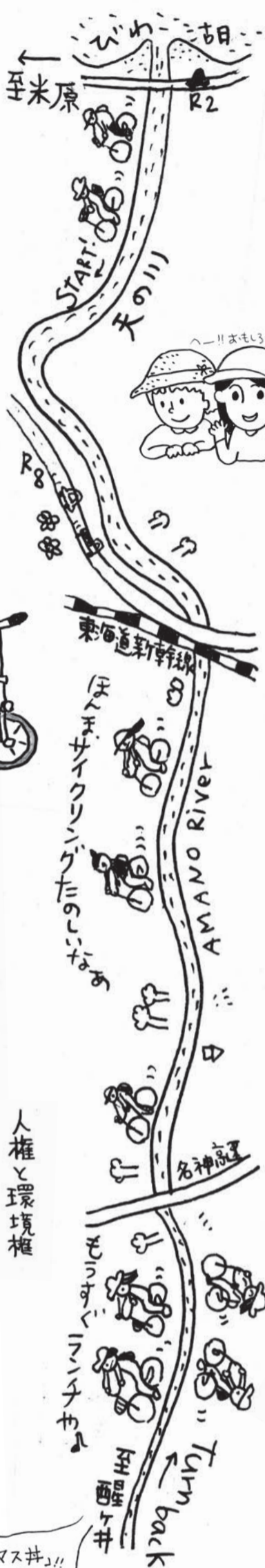
あまいる かしいい。琵琶湖の近くだったからこの遊水池は二ゴロブナだとかのイ科魚類の産卵場所になりました。田んぼの中に入りやすくなりますよね、水がつながっているから、もうちよっと中流の急流な河川だったら、アユとかビワマスとかも流されるのが嫌なので、こういうところに入って洪水が行き過ぎるのを待ちます。で、洪水が過ぎると、また自然に排水していきます。田んぼも時々、洪水にあつた方がいい土地になります。森の栄養をたっぷりふくむ土(水)が入ってくるので、今は農業を使ったりして土地改良するの、そういう必要が無くなっちゃったし、洪水が入るのが嫌だから連続堤防にしてほしいって農家の人が多いんです。

都市計画

瀧 堤防が作られたあとに浸水危険地域に新興住宅ができてしまう、というのがなかなか防げないんです。

あまいる でもそういう所に家を建てるには、なんか認可が必要なんじゃないの？

瀧 それが必要なんです。で、新しく認可が必要なような条例を作ったんです。一〇一四年です。深く浸水する所は最初からまちづくりは止めておこうよ、田んぼの風景のままがいいやん、ていうのをやっと最近滋



瀧さん

湖岸の砂浜って、川が運んできた土砂が琵琶湖に流れ着いてそれで砂浜が出来てます。なので、川から土砂が運ばれてこなくなったら湖岸の砂浜がなくなってしまう。

ところどころ川底が下がっていつてるんがわかりません。昔は山が荒れてたんです。なので、洪水の度に山の土砂がどんどん川に流されていってたんですけど、今は森が豊かすぎるんです。森の面積や量はここ三〇〇年の日本の歴史の中で一番豊かなんです。だから山から土砂がほとんど流れてこなくなっている、川底がどんどん下がっているんです。

人権と環境権

瀧 これが魚道です。ここはアユの保護水面なので、アユとかビワマスが育つようにと、行政としてもこういう所に税金を投入しやしません。人の命のための整備だったらお金はいくらでも持つてくれるんですけど、魚のためになると難しいんです。けど、水産資源だったら漁業者さん(一人)のためにありますよね。日本国憲法で環境権が保障されてないから、ただただ生き物のために税金をというのがすごく難しいんです。『ひいてはそれが人間のためになる』っていう説明をしないと聞かない、もっと遠い未来の生態系を守っていかないと聞かないという世論が大きくなっているんです。



※① 堤防が開いている。田んぼや竹林になっている。



※② 控えの堤防があるから水を導く。あふれた水は、再びもとの川に戻っていく。

「洪水」の定義とは…

①降雨・雪どけなどによって、河川の水量が平常よりも増加すること。また、堤防から氾濫し流れ出すこと。おおみず。広辞苑第五版より

暮らしのコラム

選挙に行こう～

こんにちは～ やっと決まりました、7月21日の参院選の野党統一候補が嘉田さんに！遅いわ～って言いたいところやけど、ここまでがめちゃくちゃ大変やったし、もう無理ちゃうかなとも思ったから、嘉田さんに一本化できたことはほんまに感動的に嬉しい！野党の皆さんに感謝です。

早く一本化してほしいと、私たちが「参院選の統一候補決定過程の透明化と市民参加を求める有志の会」で4野党に要望書を出したのが12月。それでもとにかくもめましたね。悲しいかなその原因が「あの人は嫌いだ、恨みがある」みたいな部分が大きくて、正直、暗澹たる気持ちになりました。

でも人間臭い泥臭い問題をひとつずつ「対話」でクリア

玉崎洋子 信楽自然育児サークルなちゅらるま代表 自家製天然酵母 たまげん

していくしかないんだと、嘉田さんとも「国民民主党から参院選に出馬」と報道された後に「くらしとせいじカフェ」で集まって「対話」をしました。嘉田さんには昨年の衆院選から不信感があったのでまずはちゃんと話をしたかった。国民民主党から出るというのなら、バックに前原さんや川端さんがいるかもと不審に思ってたけど、それは違っていました。国民民主党に党籍は残っているけど「無所属」でみんなの応援で出たいのだと(今は党籍もぬいて本当の無所属)。昨年の衆院選で希望の党から出馬したのも時系列で聴いていくと理由が分かったし、やはりあの時ちゃんと「対話」できていたら分断されずにいけたのかも思いました。

そして国会議員としてやりたい政策は、市民目線 / 女性目線で経験と実績から出来たもので、私たちの考え方に近いし、素晴らしいし、純粋に政治をちゃんとやって社会をもっと良くしていきたいとの思いが伝わってきました。そしてこの方に国会議員になってほしいと思えました。

さあ、いよいよみんなで嘉田さんを応援する体制が整いました。あとは一人でも多くの県民が関心を持って選挙に行って自分の一票を入れること。そうやって民主主義を育てていくこと。どんどん「対話」していきましょう～！身近な人と！「言霊(ことだま)」の力は大きい。